

# 経緯

2011年の初夏、マレーシアのアーティスト、シュウワイから連絡があった。11月の「第2回クアラランブル実験映画祭（KLEX）」に、日本から新しい映像作品プログラムを出品してくれないかというものだった。シュウワイをはじめマレーシアの作家とは2009年の「日本・マレーシア映像交流展」からの繋がりがあったために、われわれのSVP2(Spread Videart Project2)が依頼された。

その時点での最新作品を集めて、プログラムを組むことも出来たのだが、3月11日以降、「映像表現に何が出来るのか」を考えていた時期でもあり、既存の映像作品を集めることに躊躇した。

周知の通り、3月11日以降には夥しい映像がメディアに現れ、インターネットを巡った。そのどれもが「記録」であったことは間違いない。優先されるべきはまず「記録」であり、そこで何が起り、どのような事態になってしまったのかが記録された。映像の持つ即時性は記録と発信を同時に可能にし、あたかもそれを体験しているかのように、誰もが事の重大さを痛感した。その「記録」に手を加えて私見を差し挟むことは、被災者への配慮を欠くように思われた。このような状況は「9.11」の時にもあった。東京ビデオフェスティバルの審査委員をしていた当時、翌年のフェスティバルにはたくさん「9.11」関連の作品が集まるに違いないと思っていた。しかし、実際は数作品が応募されたにとどまった。映像表現どころではない大きな事件だったのだ。

しかし、映像表現が持つ意味は、眼前の事象を切り取り発信することだけだろうか？ 映像の「作者」はこうした事態に対して意味を持

たないのだろうか？ 映像が指し示すものは「現実の断片」である。それらが選択され構成され「意味」を付加される。指し示すだけでなく、抽象し象徴する。これから起こる何かを予見させる。

今回の日本プログラムを構成するにあたっては、個人映像作家たちに「3.11」の「解釈」と「表現」を呼びかけた。同時に「あなたは何をしていたのか？」「映像の作り手は何をするべきだと考えるか？」といった素朴な問でもあった。大災害を表現するなど不遜なことと思われるかもしれない。しかし、震災の当事者ではなくとも、少なからず誰もが精神的なダメージを受けたはずだ。それらを表現することも「3.11」の意味だと思った。

2011年11月23日から27日まで、KLEXは開催され「3.11」プログラムは26日に公開された。この時に、マレーシアの作家にも「3.11」作品の制作を呼びかけ、知人の作家たちが制作を約束してくれた。帰国後は学生たちにも制作を呼びかけながら、参加者を募りたいと思っている。

「3.11」は増殖していく作品集でありたいと願っている。  
(SVP2代表 佐藤博昭)

---

## SVP2 について

SVP2 (Spread Videart Project 2 スプレッド・ビデオアート・プロジェクト)は、1997年より活動を開始した、個人映像作家による自主運営団体です。当初はそれぞれが制作した映像作品の発表の場を作るべく、自主上映会の開催、レクチャープログラム、シンポジウムの企画・運営が主な活動でした。

その後、運営メンバーの交代を経て、2005年からは佐藤博昭、中沢あき、服部かつゆき、田中廣太郎の4人を中心として活動を行なっています。

主な活動内容は、自主上映会の開催、映像制作ワークショップの企画・運営、国内・海外作家との交流活動などです。また、メンバーは個々に、国内外の映像祭のリサーチや審査、映像祭での作品発表、テキストの執筆・編集、各種の映像制作などを行なっています。

SVP2としての活動の詳細、各メンバーについては下記HP、ブログをご参照下さい。

HP: <http://svp2.com>

blog: <http://blog.svp2.com/>

---

## SVP2 団員

### 佐藤博昭

教員ビデオ作家。ビデオアートの自主上映組織 SVP2 代表として、これまで16回の自主上映イベントを行う。2009年には「日本・マレーシアビデオ交流展」を主催・運営しマレーシアのビデオ作家5名を招いた。また、各地で高校生の映像制作ワークショップなどを開催している。日本大学芸術学部、東京工芸大学芸術学部、武蔵大学社会学部、日本工学院専門学校、桑沢デザイン研究所非常勤講師。

### 中沢あき

日本大学芸術学部映画学科映像コース在学中に SVP に参加。以降キュレーター及び映像作家として、インディペンデントシーンから教育機関や公共施設、映画祭やアートフェスティバルなど、様々な場と形で映像メディアに関わる。2006年制作のビデオ作品「願いをひく Drawing wishes」は、ベルリン国際映画祭、WRO'07、他世界各国の映画祭にて上映・受賞。ケルン在住。

### 服部かつゆき

1973生。《動く画をつくる・おしえる》を軸に活動をしている映像作家。これまでクアラルンプール実験映画祭、プントイラヤフェスティバル0.2、ビデオプールなどの国内外の映画祭やメディアセンターで作品を発表してきた。近年は《動く画と学びのコーディネーター》としてワークショップのファシリテートをおこない。子供と大人が共に楽しめる、体験・交流型の映像制作と学習の場を展開している。

### 田中廣太郎

1979年東京生まれ。作品はイメージフォーラムフェスティバル、ロッテルダム国際映画祭、EMAF、International Cinema Film Festival of Aix-en-Provence など、国内外問わず多数の映画祭で上映、受賞される。

## 主な映像・教育関連活動歴

\*1



\*2



\*3



## 2012年

映像制作ワークショップ講師 (2月28日 子ども日本語教室 福生市:東京)

しんじゅくアートプロジェクト 映像制作ワークショップ講師 (1月15日・2月5日 新宿区立地域センター)

## 2011年

KLEX (the 2nd Kuala Lumpur Experimental Film & Video Festival) 「3.11」作品上映およびパネルディスカッション、ワークショップ (11月24日~27日:クアラルンプール・マレーシア)

映像体験ワークショップ 講師 (11月19日:大田区地域振興課:大田区立山王会館)

「大人のための芸術大学」映像ワークショップ講師 (10月9日~10日:鳥取大学地域学部 附属芸術文化センター:倉吉未来中心)

「社会を変えるビジネス」魅力発信インターンシップ研修プログラム 映像制作講師 (8月30日、9月3日、17日) 経済産業省「産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業」

大久保アートプロジェクト 映像制作ワークショップ講師 (8月5日~7日:NPO みんなのおうち:新潟)

高校生ビデオ作品制作ワークショップ 講師 (6月から9月全10日:大田区・市民がつくるTVF)

## 2010年

ワークショップデザイナー育成プログラム・鳥取大学開催 講師 (11月27、28日:鳥の劇場:鳥取) \*1

長野県高等学校文化部連盟放送専門部会「ワンミニッツワークショップ」講師 (10月16~17日:上田高等学校:長野)

大久保アートプロジェクト 映像制作ワークショップ講師 (10月10日:新宿区大久保児童館)

MJVAX : Malaysia Japan Video Art Xchange 2010 関連講演 (7月24日:UiTM Perak:マレーシア技術大学ペラク校:ペラク・マレーシア)

MJVAX 関連講演およびアーティスト・プレゼンテーション (7月26日:USM:マレーシア科学大学:ペナン・マレーシア)

Video Work shop 映像ワークショップ 講師 (8月2日:Krush Pad:クアラルンプール・マレーシア)\*2

## 2009年

第28回 SBC 杯長野県高等学校新人放送コンテスト 特別審査委員 (12月19日:長野市勤労者女性会館しなのぎ)

国際交流基金・先駆的・創造事業「映像制作ワークショップ」講師 (9月22日、10月25日:新宿区大久保児童館)

長野県高等学校文化部連盟放送専門部会「ワンミニッツワークショップ」講師 (9月26~27日:上田高等学校:長野)

New Era College 新紀元学院 SVP2 セレクト上映とレクチャー (4月1日:クアラルンプール・マレーシア)

日・馬ビデオ交流展 プレイベント SVP2 セレクト上映とレクチャー (3月27日:USM マレーシア科学大学ミュージアム&ギャラリー:ペナン・マレーシア)

国際交流基金・中東映像専攻学生等招聘交流事業 映像制作統括・インストラクター (2月16日~3月2日:東京)

## 2008年

教師のための映像教育実践ワークショップ 実施構成・レクチャー (8月5日、6日:アップルジャパン株式会社:東京)\*3

市民ビデオワークショップ (5/17、6/21、7/19、9/20:ピクチャービルB1:東京)

第3回アフガニスタン映画祭 シンポジウム パネラー (3月22日、23日:片柳デジタルシネマシアター:東京)